

## (19-Ⅲ) サービス業（余暇関連その他サービス）

17/16 18/17 ◎ 伸び率10%以上 ● 伸び率0～▲10%  
: 天気図マーク; ○ ◎ ○ 伸び率0～10% ● 伸び率▲10%以下

### 1. 企業経営動向

余暇関連サービスは、景気動向や天候、そして消費者ニーズに大きく左右される特徴がある。特に、消費者ニーズは、生活様式の変化に伴う価値観の多様化により変化が激しくなっている。レジャー施設設備においても、顧客のニーズへの対応のため設備投資が行われるが、ニーズの変動が激しいため、その見極めが求められている。

遊園地業は、遊園地に併設して大規模温泉施設や特定ジャンルの飲食業を集めたフードテーマパークが各地でオープンし高い人気を集め、売上高はほぼ横ばいを維持している。農業公園やペットパークのオープンも話題を集めた。また、街中やショッピングモールに観覧車や小規模テーマパークを建設し、集客の相乗効果を図る動きも見られる。

ゴルフ場事業は、消費低迷の長期化により利用者数が減少傾向にあることに加え、民事再生法などの法的整理により再建途上にあるゴルフ場との低価格競争が激化しているため客単価の減少が続いており、極めて厳しい経営状況が続いている。このため、キャディ制からセルフ制（電動カート等）への移行等によるコスト削減を行う企業も現れている。

リゾートクラブについては、施設の宿泊者数は全体としてはほぼ横ばいに推移している。会員権の新規販売は、一部活発な企業の積極的な販売が目立つ反面、逆に会員数の減少しているところもあり、総じて言えば、好調企業と不振企業の二極分化の傾向がある。

### 2. 設備投資動向

#### (1) これまでの設備投資の推移

遊園地の投資額は、16年度実績は376.7億円（3社合計）、17年度実績見込みが387.1億円（3社合計）と規模が拡大している。投資目的別では、更新維持と生産能力増強への投資が99.9%を占めている。

ゴルフ場は、16年度実績では5.0億円（10社合計）、17年度実績見込みでは8.5億円（10社合計）と規模が拡大している。投資目的別では47.7%が更新維持となっている。

リゾートクラブは、16年度実績では15.1億円（4社合計）、17年度実績見込みでは24.9億円（4社合計）となって、規模が拡大している。好調な企業にあっては、遊休宿泊施設を他から買収し、リニューアルして稼働させるケースもあり、投資目的別では、生産能力増強と更新維持への投資が96.8%を占めている。

## (2) 平成18年度の設備投資計画

遊園地は、18年度計画では、556.1億円（3社合計）更新維持・生産能力増強を中心とした投資見込みとなっている。

ゴルフ場は、4.8億円（10社合計）、リゾートクラブは、46.3億円（3社合計）で更新維持を中心とした投資見込みとなっている。

## 3. 長期資金調達・運用動向（長期資金運用動向、長期資金調達動向）

遊園地は、一定規模の投資を必要とするため借入金調達の占める割合が比較的高い。また、内部資金への依存度が高くなっており、資金需要は低い状態となっている。

ゴルフ場は、会員制による運営を行う企業が多くを占めるため、年会費や預託金などによる内部資金に依存する傾向にあり、中長期的にみても同様と見込まれる。

リゾートクラブは、会員からの預託金などの拠出金や、施設不動産の所有権分譲形式による資金回転による調達が中心であるが、好調な企業では、不動産ファンドなど外部からの資金調達を併行させる事例も増えてきており、一部ではあるが設備投資も増加傾向で推移している。

（グラフ1：設備投資の前年度比の推移）

